

マスタ表示で  
ここにロゴを挿入

# 認定特定非営利活動法人 自立支援ホーム とことこの家

所在地 所沢市泉町 911-1 メゾン原島 101

1994年に発足  
従業員は21名  
主に知的障害、全身性障害の方への支援と  
グループホームの運営

月に約60名にサポートしています

## 事業内容

- 指定障害者福祉サービス事業(居宅介護・共同生活援助・短期入所)
- 所沢市障害児・者生活サポート事業
- 障害児・者移動支援事業



# 現場からの声

## \* 現場のうれしいエピソード

- ・偏食傾向の方がショートステイを通して、食べられる物が増えた時
- ・なにをしたいのかという要求をくみ取れて、意思疎通がばっちりとできたとき。
- ・屋外で活動している時に回りの人が応援してくれた時
- ・時間がかかっても、パニックにならずに落ち着いて過ごせた時
- ・本人のできることが増えるとき
- ・ふだんは行くところが限られる、行ったことのないところへ行き体験できる
- ・他の人は、こういうやり方をするけど、本人にあったやり方を創りだすとき

## \* 支援の難しさ

- ・良い事、悪い事、必要な事、必要でない事を伝えるのが難しいです
- ・洗剤や飲料が満タンでないと安心できなく、水をつけ足してしまうケース
- ・洗濯が必要なのに、自分のタンスに戻してしまったり、洗濯して綺麗な状態なのに何度も洗濯機に戻してしまったり
- ・必要以上にご飯をおかわりしてしまったり

# 障害者の生活・支援者の現状

- ・重度障がいの人を親が見れない、費用対効果の大きい入所施設に行っている。自宅に訪問して介護する重度訪問介護を、国はなかなか出さずとりにくい。
- ・夜間も継続してケアが必要なグループホームは、24時間のケアをする人員を必要とし、各事業所は確保できない。
- ・障がい者は、昔は学童で共に遊んでいたが、今は児童デイサービスに分けられている。障がい者には、就労支援事業という作業所が、受け皿となり、選択肢が少なく、人生のライフプランが定められつつある。
- ・障がいを持つ人の障がいは、その人にとっての生きにくさであり、支援区分の重い軽いというカテゴライズは難しい。
- ・支援者としては、一人一人の障がいに目を向ける必要があるが、支援困難者と言われる人の、計画の相談をしても、計画の具体化が進まない。
- ・地域と社会の受け皿不足と相まって、マンパワー不足の事業所は、トラブルが予測されると、支援上の安全安心の面から、利用者を選ぶ傾向になっている。

# 当事者も支援者も困っていること

- 専用(多目的)トイレが必要な時に使えない。
- 車椅子の方がエレベーターに乗れない。
- 車椅子専用駐車場が利用できない。
  - 数を増やすとともに、必要のない人は使わない、社会のマナー向上を。
- コンビニで会計時に時間がかかると、怒鳴られる。
  - 時間がかかるのが嫌な人用にセルフレジ、と対人のレジの二つの対応でしてほしい。どちらかに一極化は、困る人を増やしてしまう。
- 街中に行ける場所が少ない。車椅子は段差に阻まれる。声を上げる子は、不快に思う人によって追い出される。
  - 不便や拒まれる当事者でないと、この感覚は共有しにくいと思われる。
- 車椅子の方は、座席にすわれない限り、飛行機に乗れない。
  - 飛行機に乗りたいと希望されても、応えられない。

# 「私たちはふつうに老いることができない」

高齢化する障害者家族 児玉真美 大月書店 2020.5.15刊

- ・GHでは2015年に、消防法が改正され、区分4以上が8割を超える場合、スプリンクラーの設置が義務化された。
- ・障害者福祉というのは、思いも理念もなく、ただ資格と研修だけでやるべき仕事なのかと疑問がある。
- ・国は働き方改革で次々にいろいろな要求をしてくるから、それをこなすために、本来の仕事でないところで振り回されている。しかも、現場の事情とはお構いなしに、数字だけで評価される。
- ・一時しのぎ'に過ぎないショートスティすら圧倒的に不足しているというのに、すでに年老いた家族のもとへとこれからも介護を押し戻して行くということなのだろうか。

支援者として、支援を行う上で、  
困っていること。・支援してほしいこと。

\* 他団体との協同を目指そう、  
ボランティア・求人関係の支援を。

そして障害をもつ人の  
就学から就労と生活へ共に歩む。

障害者の地域生活支援のための、  
プラットフォームになりたい。

